

【旧約聖書日課】レビ記 19章9～18節

<sup>9</sup>穀物を収穫するときは、畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。<sup>10</sup>ぶどうも、摘み尽くしてはならない。ぶどう畑の落ちた実を拾い集めてはならない。これらは貧しい者や寄留者のために残しておかねばならない。わたしはあなたたちの神、主である。

<sup>11</sup>あなたたちは盗んではならない。うそをついてはならない。互いに欺いてはならない。<sup>12</sup>わたしの名を用いて偽り誓ってはならない。それによってあなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。

<sup>13</sup>あなたは隣人を虐げてはならない。奪い取ってはならない。雇い人の労賃の支払いを翌朝まで延ばしてはならない。<sup>14</sup>耳の聞こえぬ者を悪く言ったり、目の見えぬ者の前に障害物を置いてはならない。あなたの神を畏れなさい。わたしは主である。

<sup>15</sup>あなたたちは不正な裁判をしてはならない。あなたは弱い者を偏ってかばったり、力ある者におもねってはならない。同胞を正しく裁きなさい。<sup>16</sup>民の間で中傷をしたり、隣人の生命にかかわる偽証をしてはならない。わたしは主である。

<sup>17</sup>心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。<sup>18</sup>復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

【使徒書日課】ヨハネの手紙一 4章13～21節

<sup>13</sup>神はわたしたちに、御自分の霊を分け与えてくださいました。このことから、わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくださることが分かります。<sup>14</sup>わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証ししています。<sup>15</sup>イエスが神の子であることを公に言い表す人はだれでも、神がその人の内にとどまってくださり、その人も神の内にとどまります。<sup>16</sup>わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。<sup>17</sup>こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。<sup>18</sup>愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が

全うされていないからです。<sup>19</sup>わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。<sup>20</sup>「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。<sup>21</sup>神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

### 【福音書日課】ヨハネによる福音書 13章31～35節

<sup>31</sup>さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。<sup>32</sup>神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。<sup>33</sup>子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。<sup>34</sup>あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。<sup>35</sup>互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。』

#### 「互いに愛し合いなさい」【こども説教のために】

最初のイースター（復活祭）からペンテコステ（聖霊降臨祭）に至る七週の間、ご復活の主イエスは、弟子たちの集まる場所にいつも現れてくださいました。そのとき、弟子たちの間で主イエスは、ガリラヤにいたときからずっとお教えくださっていたことを、もう一度お話しくくださったのに違いありません。弟子たちは、現れてくださった主イエスのお語りくださることを聞きながら、かつてお話しくくださったときのことを思い出していたのではないのでしょうか。

「互いに愛し合いなさい」。それは、主イエスが十字架の上で死なれた前の晩に、弟子たちとの最後の食事の席でお語りくださった教えでした。主イエスはそのとき、「あなたがたに新しい掟を与える」とおっしゃられたのです。

主イエスは、弟子たちに最初から、「愛の教え」をお語りくださっていました。「隣人を自分のように愛すること」（マルコ 12:31）だけでなく、「敵を愛すること」（マタイ 5:44）もお教えくださっていました。ところが、最後の日に「互いに愛し合いなさい」とお教えくださったときに、あらためて「新しい掟を与える」とおっしゃられたのです。それは、弟子たちの記憶に強く残ることだったのでしょう。

耳を澄ませましょう。主イエスは今も、この集まりの中でお告げくださっているのです、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい」と。

## 神を愛する人は、兄弟をも愛す

教会ではお互いのことを「兄弟姉妹」と呼ぶことがあります。信者同士の敬称に「兄」や「姉」を用いることもあります。そのような呼称を聴いたり見たりして、最初は戸惑われる方もあるようです。元々は、主イエスがご自分の弟子たちを指して、「ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる」（マルコ 3:34）とお呼びくださったことから始まったのです。使徒たちの残した書簡では、当たり前のように用いられています。

弟子たちの集まりから始まった教会に招き集められているわたしたちは、主イエスが「わたしたちの天の父」とお呼びした神を「家長」に、主イエスをいわば「長兄」とする「神の子ら」の「神の家族」なのです。

教会の歴史を振り返ると、確かに教会はいつの時代も「一つ」であろうとしてきました。「神の家族」であれば、唯一の神のもとで「一つの家族」であるのは当然でしょう。古代ローマ帝国の支配下、迫害の時代がようやく終わり、帝国公認の宗教とされたとき、真っ先に取り組まれたのは、教会が「一つ」であるための基準作りでした。「ニカイア信条」をはじめとする教理文書が「公会議」で採択され、それを基準に「一つ」であろうとし始めました。残念ながら、それは、教会が「一つ」であることを内部から壊してしまうものにもなってしまいました。基準から外れた者たちが、「一つ」の枠組みから排除されるようになったのです。東西の教会が大分裂したのは、それから数百年後です。そして西方教会も、16世紀の宗教改革を皮切りにして、四分五裂してきたのです。「一つ」であることに失敗してきた教会が、もう一度「一つ」であろうとし始めたのは、ようやく百年ほど前からのことです。

教会のこのような歴史を見て、キリスト教会に対して不信を向けられる人が少なくないことを、わたしたちは知っています。今も、同じ東方正教会の系譜にある東欧の隣国同士が激しい戦争を続けているのです。その戦火のもと、双方で「復活祭」が祝われたことが大々的に報じられたのは、何という皮肉でしょうか。一体、だれが、このようなキリスト者の姿、教会の姿を見て、そこに良いものを見いだすことができるでしょうか。

それは、弟子たちが始めた教会ですでに問題になっていたことなのです。「ヨハネの手紙一」は、彼らの教会の中で、「**神を愛していると言いながら兄弟を憎む者**」がいる現実を指摘しています。そして、言うのです。そのような者は「偽り者です」と。「**神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです**」と。

それは、何よりも、主イエスから教えられていたことであつたはずです。最後の晩に、あえて「**あなたがたに新しい掟を与える**」と告げてからお教えくださった愛の掟を、ヨハネの教会は、あらためて思い出すことが必要でした。そこにわたしたちの大きな問題があることを認める必要がありました。

## 「わたしがあなたがたを愛したように」

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」。

そのとおりなのです。ところが、多くの人が、主イエスという方に関心を持ちながら、教会で躓き、教会に躓くのです。わたしたちキリスト者の教会での振る舞いが、主イエスの弟子として知られるようなものになっていないのです。教会も、主イエスの弟子の営みとして知られるようなものになっていないのです。

そのことを自覚してのことか、「わたしや教会を見ないで、神を見てください」とおっしゃる方があります。人や教会のような「見える」ものを見られると、人を躓かせてしまうから、「見えない」神を見てほしい、と言うことなのでしょう。けれども、それは果たして、キリスト教会が受け継いできたことでしょうか。主イエスがお教えくださったことでしょうか。

主イエスが弟子たちにお教えになられたのは、「見えない神を知るようになって、心の平安を得ること」ではなかったはずです。「神の御心を行う人」(マルコ 3:35)になることであつたはずです。「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マタイ 5:48)と、主イエスはお教えになられたのです。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と、わたしたちの生き方、振る舞い方がどうあるべきなのかをお教えくださったのが、主イエスだったのです。

弟子たちが、最後の晩にお語りくださった主イエスの教えを、「**新しい掟**」として心に留めたことを、わたしたちも心に深く留めましょう。

彼らの一人、イスカリオテのユダは、たった今、その食事の席から離れて行ったばかりでした。その食事の席に着くに際して、主イエスは、弟子たち一人ひとりの足を手ぬぐいで洗われて、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように」(ヨハネ 13:15)とおっしゃられたばかりでした。主イエスが足を洗われた弟子の中に、あのユダもいたのです。

復活の主イエスを真ん中にして、弟子たちは、あの最後の晩にお語りくださった「**新しい掟**」の言葉の重みを、噛みしめていたに違いありません。「わたしがあなたがたを愛したように」とおっしゃられた主イエスは、「わたしがユダを愛したように」ともおっしゃられたのです。主イエスが示された愛は、あのご自分を売り渡そうとする者にも向けられたものでした。それは、主イエスが「天の父の御業」と信じてなされた愛の実践でした。

神の愛を知り、その愛にとどまるのです。それは、主イエスを通して、神に愛された人を通して、今も、あなたに、わたしたちに向けられている愛です。愛されたことを多く知るならば、人は必ず、愛する者になるのです。